

特定非営利活動法人
日本リザルツ

平成29年度 事業報告書

日本リザルツ
平成30年3月5日作成

03

M A R C H



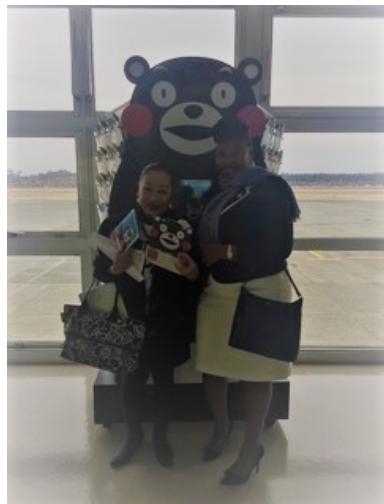
2017年03月01日

イボンヌさん再び熊本へ

イボンヌ・チャカチャカさんが賢人達人会の会合のため来日。

以前訪問したことのある熊本を、是非、訪問したいということで弾丸日帰りツアーが実施された。

メンバーはイボンヌさんに加え、ご子息のイスラエルさん、代表の白須、そして長坂。



まずは熊本地震で大きな被害を受けた益城町を訪れ、仮設住宅での生活を余儀なくしている1人1人の住民の声を聴いた。



また、女性と子どもの健康改善に向けた活動をされているイボンヌさん、



お母さん同士が交流することで、子育ての悩みや不安を解消する活動を行っている、母と子の集いに参加することができた。

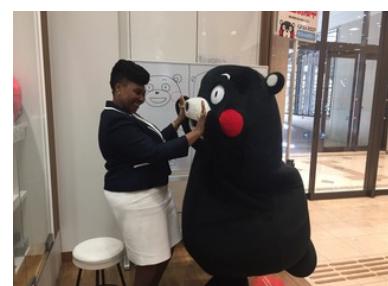


子どもたちと塗り絵を楽しんだ。



くまモンと再会した。

ステージでは熊本のみなさんを元気にしたいと 1 曲披露され、拍手喝采、大盛り上がり。明日もイボンヌさんのアドボカシー活動は続く。



「平成 29 年度 NPO 関連予算公開ヒアリング」に参加して参りました。

本日は、民進党が主催する「平成 29 年度 NPO 関連予算公開ヒアリング」に参加した。

いつだって We Love T シャツ

主催者挨拶と本日の主旨の説明の後、次々と各省庁による説明と質疑応答が行われた。トップバッターは外務省、その後、環境省、内閣府と続いた。

外務省は、「顔が見える支援」をモットーに NGO との連携をもっともっと強めていきたい！重要なパートナーとして位置付けているとした上で、予算編成・サポート事業の概要について説明をされていた。日本リザルツもお世話になっている JPF(ジャパンプラットフォーム)の説明もあった。また、外務省が行なっている NGO の支援事業では、国際的に活躍できる人材を育成するような事業もいくつもあった。午後は、復興庁、法務省、農林水産省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省と続き、復興庁に関しては、被さい者サポート総合交付金が継続される旨、説明があり、釜石で子ども・親子のケアを頑張っている鈴木の顔が浮かんだ。厚労省の部分では、離婚と親子の相談室らぽーるの広報のため、先月 23 区役所を行脚した際に、家庭サポートの課を中心に巡っていたため、聞き慣れた言葉がたくさん出てきて、聞いていて楽しかった。また、離婚を考える親たちをサポートする事業に対する予算がないか食い入るように資料を確認したが、まだ未定のようだ。「子どもファースト離婚」



を掲げ、らぼーるがますます盛り上がってきているので、来週再来週策を練って色々動いていこうと思う。朝一から夜まで、わからない言葉も多く、また各省庁が準備した分厚い資料を相手に、格闘した1日だったが、大変勉強になった。

2017年03月02日

イボンヌさんのアドボカシー活動 in 東京

本日は東京でアドボカシー活動。まずは公明党山口那津男代表、公明党副代表で女性委員長、そして厚生労働副大臣を務められる古屋範子先生と、公明党参議院国会対策委員長、SDGs推進委員会座長の谷合正明先生も同席された。公明党はSDGs推進委員会をいち早く設立するなどSDGsに対して積極的に取り組み、特に、SDGsを教育に取り入れようと、公明党が尽力されている姿に感銘を受けていた。



JICAでは保健担当の責任者、鈴木規子理事に面会した。TICADVIで発表した、食と栄養のアフリカ・イニシアチブ(IFNA)の立ち上げについて、栄養改善について関心の高いイボンヌさん、担当の榎本雅仁上級審議役から熱心に進捗状況を聞いていた。

明日もアドボカシー活動は続く。



2017年03月03日

イボンヌさんのアドボカシー活動 in 東京(2)

イボンヌ・チャカチャカさんが本日も東京でアドボカシー活動を行った。まずはNGO、企業などとの懇談会でアフリカの要人と強いコネクションを持つイボンヌさんに、多くの方が訪れた。

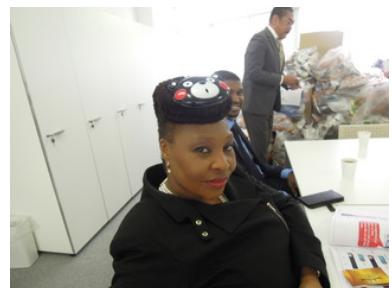
アフリカへの進出に関して、たくさんの相談が寄せられた。

この後は、和泉洋人内閣総理大臣補佐官、外務省森美樹夫審議官（地球規模課題担当）との昼食会が行われた。実は昨年のGGG+フォーラムでお会いする予定だったが、イボンヌさんは足の手術で来られなかつたため、今年開かれるGGG+フォーラムでは、和泉内閣総理大臣補佐官とともにパネリストとして出席したいと伝えられたそうだ。そして、安倍晋三内閣総理大臣を表敬訪問し、一連の日程を終えた。

人気者のイボンヌさん、メディアワークも活発にされていた。

公明新聞（3月3日付、朝刊1面）

熊本日日新聞：南アの女性歌手、被災地にエール　益城町の仮設団地（3月2日11:00配信）



2017年03月05日

釜石生活⑭ ~子どもの気持ち学習会~

3月4日、午前中に「支援者研修会(後半)」、午後は保護者向けの「子どもの気持ち学習会(後半)」を予定していた。それが、直前のキャンセルもあり、参加人数が減ったことと、講習内容が大体同様なこと、参加者の同意が得られたことから、子ども課との協議により、午後に一括開催することになった。



写真は毎回似ていますが、今回は、(学童の先生の研修会と同じく) メインテーマを「片親疎外」とし、海外の家庭裁判所のお話も聞けたり、いろいろ貴重な動画も見せていただいたりして、勉強になった。参加者の中には、前半を受講せず、後半に参加された方もいらっしゃいましたが、それでも理解できるよう、各回完結型にしていただいている。4月以降も、サブテーマをもつといろいろ考えて、「子どもの気持ち」の学びを深められるようにしたいと思う。

2017年03月06日

ガザの子どもたちとの交流会 -Skype会議-

本日は、参議院議員会館 B107 会議室にて、ガザと永田町をつないで Skype 会議を開催され、総勢 80 人が集まった。(ガザ: 30 人、日本: 50 人) インターネットの接続状態が悪く、途中で何度も切れてしまったり、動画と音声が同時には送受信できなかったりして、なかなか難儀な場面もあったが、衆議院議員逢沢一郎先生 (UNHCR 国会議員連盟会長) ミスター・ガザ大野元裕先生 (日本・パレスチナ友好議員連盟幹事長)、衆議院議員小渕優子先生 (日本・パレスチナ友好議員連盟副会長)、参議院議員谷合正明先生 (日本・パレスチナ友好議員連盟副会長) が、ガザの子どもたちに向けてご挨拶をされ、その後、ガザからは Bo SCHACK, UNRWA ガザ事務所所長や大久保武、パレスチナ関係担当大使兼パレスチナ暫定自治政府日本国政府代表がご挨拶された。

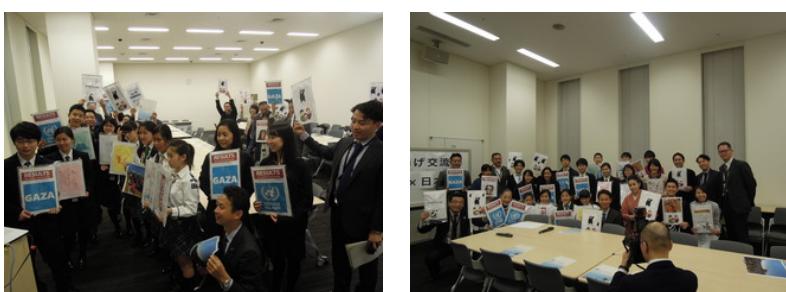
そして、いよいよ Skype を使って、ガザの子どもたちと日本の子どもたちとの自己紹介タイム、各自に両持、英語で一生懸命、自分の名前と学年、一言メッセージを伝えていた。





最後は谷合先生が号令をかけて、皆でさようなら！をした。

また来年もお会いしましょう！



解散前の記念撮影！いい笑顔！

ガザの子どもたちとの交流会 -Skype会議- (子どもたち編)

6日に開かれたガザの子どもたちとの交流会。参議院議員会館 B107 会議室にて、ガザと永田町をつなぐ Skype 会議を開催した。日本から多くの子どもたちが参加した。東洋英和女学院高等部、創価高校、ガールスカウト 121 団など多くの方がガザの子どもたちと交流した。参加した生徒のみなさんの中には、以前ガザの子どもたちに会ったことがある方もいて、再会を喜んでいた。

ガザでたこ揚げ！

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）のキャンペーン事務局をしている。パレスチナ自治区ガザ南部のハンユニスで5日、東日本大震災から6年が経つのを前に、復興を願うたこ揚げ大会が行われた。



地元の子供たち約1000人が色とりどりのたこを大空に揚げ、メディアにも大きく掲載された。

釜石生活④～子どもの養育 弁護士相談会～

3月5日、14～16時、「子どもの養育 弁護士相談会」を開催した。2件の離婚に関係する相談があった。誰しも、離婚後の生活を考えると、経済的な不安が大きいので、質問などはお金のことが多いのは理解できるが、「らぼーる」でも「子どもファーストの離婚」を提唱しているように、子どもの気持ちを一番に考えてあげて欲しい。子どもが、離れて暮らす親に会いたくないと言ったときには、なぜなのか、本心なのか、同居している自身の影響ではないのか、冷静に考えてもらいたいと思う。そして、「片親疎外」の研修会に参加していただきたい。そうすると、「そっかー、今は会いたくないと思うのね、でも、いつでも、会いたいと思ったら、そう言ってね」と笑顔で声掛けできる自分に気付くだろう。以前、紹介した本にあったように、「子どもたちに有害な結果をもたらすのは、親たちが別れるという出来事それ自体よりも、別れに先立つ緊張と敵意」だそうなので、子どもたちに、”別れたあの協調、協力”を見せることができるのならば、有害な結果をもたらすことにはならない、ということになる。難しいが…子どものためなら、きっとできる。

2017年03月07日

公明党さんから運動靴が！

日本リザルツが始めたQ&AAA+プロジェクトに、本日も運動靴が届いた！公明党のみなさんが靴を集められた。参議院議員の秋野公造先生、佐々木さやか先生、高瀬弘美先生、衆議院議員の真山祐一先生と一緒に贈呈式が行われた。



2017年03月08日

理事会・総会を開催

昨日、3月7日(火)に平成28年度日本リザルツ通常理事会・総会が開催された。直前まで事業報告書や印刷、決算報告書並びに、来年度の事業計画や司会原稿の確認等で大忙でしたが、何とか全ての準備を終え、理事会・総会は議事も肃々と進み、無事終了した。



総会終了後には、懇親会を近くのレストランで行い、理事の方々、リザルツのスタッフ、各方面のお付き合いのある方々にお集まりいただき、楽しい時間を過ごした。



2017年03月10日

ガザ起業家報告会

日本リザルツは国連パレスチナ救済事業機関（UNRWA）のキャンペーン事務局をしている。今日はUNRWAと日本リザルツが共催するガザ起業家報告会が、参議院議員会館で開かれました。ガザ地区が抱えている大きな問題の1つが失業だ。パレスチナ中央統計局によると、2014年のガザの失業率は43%と世界で最も高く、中でも、若者の失業率は60%～70%と言われている。長期化する紛争に加え、大学を卒業しても仕事がないため貧困に喘ぐ日々…ガザの若者たちは二重の苦しみを抱え、先の見えない日々を過ごしている。何とかして、ガザの若者たちに生きる希望を与えられないだろうか。そこで起業支援プロジェクトが発足した。まず、発起人の上川路文哉さんからJAPAN GAZA INNOVATION CHALLENGE（ガザビジ！）発足の経緯について説明があった。そして、お2人の起業家のプレゼンテーション。ガザビジ！コンテストの優勝者、マジド・マシュハラウイさんは、自宅で独自に開発した「安くて軽くて丈夫なブロック」を紹介した。マジドさんは、大学で土木工学を学んでいた2015年に建築資材会社「Green Cake」を起業し、高価なセメントを少なくして、ごみ同然の焼却灰を使ったブロックを発案、実験を1年繰り返して仕上げたそうだ。会場には国会議員の先生方をはじめ、多くの方々が訪れ、活発な質疑応答が行われた。





最後は今回の企画をサポートして下さった、参議院議員谷合正明先生からご挨拶があった。
最後はみんなで記念撮影。イベントは大盛況のうちに終わった。

2017年03月12日

釜石生活⑯ ~東日本大震災6年~

3.11 を岩手県釜石市で過ごすことや、グリーフケア アドバイザーの研修を受講する意味を考えた一日であった。2017年3月11日の朝は晴れて、三陸の海はこんなにも穏やかで青く澄んでいた。



午前中は、「釜石ママハウス・ひまわり」におじゃまして、被さいされたひとり親と子どもも、震災後に生まれた子ども、ご近所さんなどで、凧に絵付けを行う。近くの広場に移動して凧揚げまでしたかったが、昨日は「ひまわり」を紹介するラジオの生放送があり、スタッフや利用者への事前インタビューや、ラジオの前半の放送を聞いたご近所さんが駆けつけた。



14時46分にはサイレンが鳴り、黙とうをささげ、被さい地の時がとまったようだ。



この鐘には次の4つの言葉が刻まれている。震災で犠牲になった人々への「鎮魂」、被災した郷土の復活を願う「復興」、この震災を忘れず後世に伝える「記憶」、そして誰もが持ち続けなければならない「希望」、この言葉を想いながら、並んで、鐘をつかせていただいた。東日本大震災から6年、被さい地は復興に向けての歩みを続けてきたが、今日は祈りをささげ、大切な人をしのぶ日に、そして、すべての人が大切な人を想う日にして欲しいと考えていた。



2017年03月13日

世界の母子栄養改善のための国際機関邦人職員増強と、政府、NGO、大学で連携すべきこと

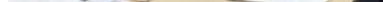
国際栄養母子議員連盟と FAO と日本リザルツが協力して、「世界の母子栄養改善のための国際機関邦人職員増強と、政府、NGO、大学で連携すべきこと」という会議を開催した。



会議員の先生はじめ、国際機関、関係各省庁、JICA、大学、NGO など多くの方が参加した。



まずは、国際母子栄養改善議員連盟会長の山東昭子先生からご挨拶があった。



続いて、FAO 駐日連絡事務所長チャールズ・ボリコ氏から、FAO について紹介があった。

文部科学省から「トビタテ！留学 JAPAN」について、外務省から国連ボランティア（UNV）について説明があった後、優秀な日本の若者が国際協力の場で活躍できるよう、FAO から国際機関邦人職員増加のための提案が行われた。



山東先生はじめ、猪口邦子先生、今井絵理子先生も出席され、真剣に議論を聞かれていた。国際機関の邦人職員増加は日本にとっての課題で、モダレーターの JICA 榎本雅仁上級審議役を中心に、関係各省庁、大学、国際機関、NGO のみなさんから様々なアイデアや意見が出された。





海外でインターンシップをするには資金が必要だ。私も1人でも多くの若者が海外に羽ばたけるよう、政府、大学、国際機関が連携し、経済的な協力をやってほしいと訴えた。



2017年03月14日

G7/G20に関する外務省経済局との意見交換会

G7/G20に関する外務省経済局との意見交換会が開かれた。日本リザルツも出席し、サミットに向けて以下のような提案をしてきた。

①薬剤耐性問題をG7サミットの主要議題に！

1. 薬剤耐性をG7サミットの主要議題にすること。
2. 薬剤耐性問題の解決に向け、G7/G20各国が更なる資金面での協力をを行うことを確認すること。
3. 薬剤耐性問題の解決に向け、産学官連携で研究開発・抑止に向けた取り組みを推進させること。

②Gaviワクチンアライアンスへの更なる応援を！

1. 国際保健、特に予防接種・Gaviに対する継続支援の表明。
2. UHCへのG7の支援の継続と、達成に向けた進捗状況に関する透明性のあるモニタリングの実施。
3. 国際保健と、難民問題・気候変動等などの他の重要アジェンダとの関連性を考慮した支援。



私たちの提案が反映されることで、サミットがますます有意義なものになるといい。

2017年03月15日

名古屋小児がん基金理事長の小島先生と、厚生労働省に小児がん対策の推進のお願いに

昨日、名古屋小児がん基金理事長で名古屋大学名誉教授の小島勢二先生と白須代表に同道して、厚生労働省の難病対策を管轄されている部署の一つである移植対策推進室に伺い、井内室長を訪問した。小島先生は、小児がんの移植治療を中心に、患者の治療、新たな治療法の研究、そして後進の指導と国際的な研究ネットワークの構築にと、幅広く精力的な活動を続けられている当該分野の第一人者。先生を中心に、名古屋大学病院は、臨床研究と基礎研究を両輪に推進し、全国の小児がん拠点病院の中でも最高の総合評価を受けている。

先生の幅広い研究は、急性リンパ性白血病患者の次世代シークエンサーを利用した微小残存病変の確認法の確立や、免疫細胞であるT細胞の抗原提示機能を付与するCAR-T療法など、先端の成果として公表され、小児がんの治癒率を更に向上すべく総合的なアプローチが強力に推進されている。

こうした研究は、基礎研究と臨床治療を含めた研究費の補助と、患者の経済的負担を軽減して手の届く治療費を実現すべく保健の適用を含めて、病院関係者・学会・厚生労働省を含めた統合的な対応が必要になっている。井内室長も、こうしたアプローチを充分に理解されており、個々の治療技術の確立と包括的な研究のロードマップを期待している旨の意見を戴いた。小島先生を中心とした研究の進展を期待すると同時に、厚生労働省の熱いバックアップの姿勢に意を強くする一日であった。

白須代表ケニアへ！

3月15日（水）夜から、白須代表がケニアを訪れる。一連のケニア滞在で、白須代表は世界結核デーのイベントに出席したり、エスンバ村への訪問を行う予定。

白須代表も嬉しそう！



旅立ちに先立ち、白須代表のお孫さんが運動靴を届けてくれたサプライズがあった！贈呈式も行った。



ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟

3月15日(水)、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟が開催された。

国会議員の先生方はもちろん、ストップ結核パートナーシップ日本、厚生労働省、外務省などさまざまな関係者が出席した。



司会は、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟副会長の高階恵美子先生。



まずは事務局長の浜田昌良先生からご挨拶。



続いて、会長を務める、武見敬三先生からもご挨拶があった。



厚生労働省、外務省、JICA、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本など、たくさんの方から意見が出て、闊達な意見交換の場となった。また、会議の中では、今月、東京で40年ぶりに『第6回 国際結核 肺疾患 予防連合 アジア太平洋地域学術大会』が開催されることが発表された。結核の抑止に向けて、産学官、そしてNGOが一丸となって取り組んでいきたい。



つなみ募金

先週の3月10日(金)に恒例のつなみ募金を経済産業省前で行った。あの東日本大震災から丸6年になるが、復興には時間がかかりそうで、私たちも復興のお手伝いを頑張る。今回のつなみ募金デビューは中島氏で、最近リザルツのお手伝いをしていただいている。

いつもお昼の時間帯に行っているが、午後一番の会議があったため、11時過ぎに開始した。やはりいつもより人通りは少なかった。



2017年03月16日

スラム街での相互扶助

昨日は月例の CHV 会合に出席した。4CU(コミュニティ・ユニット)の内 Kibagare と Gichagi B の 2CU の CHV から、この 1カ月間の活動報告(レポート)を提出してもらい、スタッフから質問やアドバイスを受けた。その後総括的な話をスタッフから聞いたり、活動に当たっての意見や質問のやり取りなどがあった。会合が終了後、一人の CHV が担当地域に住む一人住まいの男性を連れてきた。彼は結核患者とのことで、病気のため収入がなく、病院に行けないとのこと。更に右側の肋骨当りが大きく腫れあがっていた。



同じ CU の CHV たち 10 人程が集まって、彼の対処を協議し、最終的に病院に連れていくことになった。いつの間にかその場にいた CHV たちが、少しずつお金を出し合って、医療費を捻出していた。この様な相互扶助の姿を目にしたのは初めてなので、普段でも地域内の助け合いは行われているのか、又は特別なケースでめったにないことなのか、後でスタッフに聞いてみようと思う。どちらにしても、少し心が温まる光景であった。因みに、昨年 12 月から約 100 日続いていた、Public sector(公立病院) の医師によるストライキが、今日政府との間で妥結し終了したとの報道があった。詳しい内容は未だ把握していないが、待ちわびた患者にとって嬉しい話である。

2017年03月17日

ソマリアでコレラワクチンの大量接種が始まる

Gavi ワクチンアライアンスは、ソマリア国内で、旱魃の影響を受けている 3 つの地域で、コレラの流行を阻止するための大規模なワクチン接種キャンペーンを 3 月 15 日から開始。このキャンペーンは、1 歳以上の幼児や子ども 45 万人に、2 回の接種を行うもので、Gavi がワクチンの提供とキャンペーンの財政支援を行い、ユニセフがワクチンの調達・輸送・保管を担当し、ワクチン接種は WHO とユニセフの協力のもとでソマリア政府が行うものだ。ワクチン接種と同時に、ユニセフを含む各種の市民団体が、安全な水の確保や保健衛生インフラの改善の活動を行い、コレラの流行を防ぐための活動に従事している。ソマリアでは、最近の旱魃で、汚染された水の使用を余儀無くされる地域が増し、コレラの急速な拡大が懸念されている。また、南スудانでも Gavi によるコレラワクチンの接種キャンペーンが始まった。こうした活動によって、コレラのこれ以上の拡大が抑えられればと願っている。

釜石生活⑩ ~相談室の務め~

釜石で「青葉通り こどもの相談室」を開設して 4 か月半になる。人口 3 万 5 千人の同市で、どのくらいの需要があるか、私たちの考え方ややり方が受け入れられるのか、心配しながらやった。初めは、なかなか相談もなくて悩んだこともあった。そんな時、複数の釜石市在住の年輩の方から、「いくら新聞に出てても、『広報かまいし』に載っても、待っていては相談は来ないよ、外に出ていくことだよ」とアドバイスをいただいた。ちょ

うど良いタイミングで民生委員協議会で時間をいただけすることになり、1週間かけて8か所の協議会に参加し、挨拶と活動紹介をさせていただいたり、市内の保育園、認定子ども園、幼稚園、小中学校、教育委員会にもチラシを持ってご挨拶に伺った。その頃から、相談をいただけるようになってきた。相談員である私自身は、子どもの心理の専門家ではないが、親や大人が問題視する子どもの言動には、必ずそれに至る原因があるので（複数の原因がある場合も）、それが見えてくるまで、家庭環境はもちろん、「そんなことまで？」と思われるようなことも聴いている。そして、その場では見えないことも多いので、面談後も折に触れ、ショートメールを送ったり、母と子と一緒に、あるいは別に、話しを伺ったりしている。入電や来所された後のケアこそ、大事だと考えている。そして、震災や親の離婚などで心に傷を負った子どもたちが、専門性に秀でた適切な手当を受けられるようになつけて、同時に親や保護者の心のケアをしつつ、回復のプロセスを見守るところまでが相談室の務めであると思っている。今では、「先生（先生じゃないよって言ってるのですが…）、〇日△時に行ってもいいですか？」「うれしいことがあった」など、メールをくださる親も何人かできたので、4月からもその姿勢で活動していく。

釜石生活④～同志 その①～

釜石に来てからは2人の同志に出会った。今日はそのうちのひとりについてのお話だ。

盛岡在住の放課後児童支援員の方で、わざわざ盛岡から、臨床心理士の石垣秀之先生の「支援者研修会」に参加のため1月と3月に、あと、12月の「親共育プログラム」にはご主人と娘さんを伴い参加してくださいました。仕事柄、ひとり親家庭の子どもたちと日々接しておられて、「両親の離婚そのものより、それに伴う混乱、葛藤、喪失が子どもの心を傷つける」ということを実感しているとのこと。「問題行動をとる子は、ひとり親家庭の子であることが多いというのはみんなが知っていることだが、ひとり親家庭のどういう点がどう子どもに影響してそうなるのか、親やまわりの大人がどうすれば防げるのか、教えてくれる研修や講座はなかつた。ぜひ『青葉通り こどもの相談室』の取り組みを盛岡でも実現したい。動いてみる」とおっしゃっていた。頼もしい同志と協力し合って進めていきたいと思う。

2017年03月18日

「子どもファースト」離婚講習会(第3回)を開催しました

離婚と親子の相談室らぽーるで「子どもファースト」離婚講習会(第3回)を開催した。今回の参加者は7名で、それぞれの方が知りになりたいことを中心に説明を行った。説明を行った内容は、ADRのこと、養育費について、夫婦のコミュニケーションをスムーズに行うための心得等で、途中グループディスカッションを取り入れながら進行を行った。参加者の皆さまからは、

- ・一つのことに対しても違う考え方があることに気が付いた。即ち、答えは一つだけではないこと。
 - ・自分と相手とは違うことを知ったうえで、相手を認めていくことの難しさを知った。
- という感想をいただいた。

離婚問題の渦中の参加者に、今日のこの講座が今後少しでもお役に立てば幸いだ。

【白須代表ケニア視察】3月17日①

3月15日（水）夜から、白須代表がケニアを訪れ、世界結核デーのイベントに出席したり、エスンバ村への訪問を行う。スナノミ症関連、そしてカンゲミでの結核プロジェクトについての話し合いを行った。片山芳宏公使参事官も出席していただいた。特にカンゲミで実施している CHV(コミュニティーヘルスボランティア)の活動について、熱心に聞かれていた。その後、日本リザルツが結核プロジェクトを行っているカンゲミのスラム街に立ち寄り、小学校でのくまもん塗り絵大会に参加したり、結核患者の家を訪問。

2017年03月19日

子ども達との交流(塗り絵と結核予防の話)

3月17日 Kangemi 居住区内にある Kihumbuini 小学校を白須代表と共に訪問した。まず Office に行って、Head Teacher(校長)に挨拶した後、Pre school 2 クラス(105名)の教室に向かった。こちらは日本の2年生位に当たり、簡単にCHVの活動やくまモン塗り絵で、被さい地の人たちや子供を支援、元気づけて欲しいと説明後、“くまモンのぬり絵”の用紙とクレヨンを配布し、塗り絵が開始された。各自思い思いの色を使い、短いメッセージなども入れてもらい、途中スタッフや CHV の人たち 15 名も手伝いながら、作業は進んでいった。終了後生徒たちが描いた塗り絵を回収、日本に持ち帰って熊本で展示する予定。塗り絵の趣旨を、どの程度理解してくれたか気になるが、“We love JAPAN”とメッセージを書いてくれた子たちは、何か日本にしたと思ってくれただけでも、意味があったかも知れない。

次に高学年に当たる6年生の4クラス(計110名)で、結核について先生や我々のスタッフから話を聞いてもらった。先生からは手を洗うことの大切さと同時に、手拭き際のハンカチやティッシュの清潔さについても話が及んだ。今日の講演を切っ掛けに、CHVの活動が病気の予防、患者の人たちを助け、自分たちの地域の生活環境を改善してくれていることを、少しでも分かってくれれば有難い。

この後結核患者宅を訪問した。会った患者の男性は、10年以上前から結核を患い、2回ほど回復はしたもの、完治には至っていない。本人は担当のCHVが定期的に訪れよく相談や指導をしてくれるので、感謝していると述べていた。薬を服用しているが、アルコール依存症の為、家族や担当のCHVも対応に苦慮している様子。医療センターから供給された、粉を溶いた食料を摂取していることもあり、少し体重は増えてきたようだ。次に会ったときは更に体重が増えているよう期待していると伝えた。

患者にとって罹患していることを隠したり、口に出せないため、相談に乗ってくれる外部者がいることは、心強く思われているはず。そのためにも親身になって話を聞き、対処策を考え上げることが大切だと思う。



小学校に到着

校長先生に挨拶、塗り絵の紹介をする

校舎の中庭では生徒たちが興味津々で見つめる



白須代表が自らが描いた塗り絵を紹介、後方は CHV の方たち

腕が触れ合いながらも一生懸命描いている

CHV の人もお手伝い



私たちが描いた塗り絵、上手く描けたでしょう



子どもたちも嬉しそう白須代表を囲んで
高学年の教室で結核に関する資料を見ながら話を聞く
スタッフの説明に耳を傾ける



グループに分かれて議論

2017年03月20日

【速報】第3回スナノミキャンペーン1

3月19日-3月26日、8日間にわたり「第3回スナノミキャンペーン」を開催している。

2日目の今日は、昨日に引き続き Sofia Shopping Sentre, EBUKANGA と Ebukolo Chiefs Centre, EBUSIEKWE で開催した。

今日の午前だけで、EBUKANGA 100名以上、EBUSIEKWE 50名以上を治療し、地区長、保健省職員、CHV(Community Health Volunteer)も加わっている。



昨日も想定していた各ポイント 25名、計 50名をはるかに上回り、75名以上を治療、65家屋を洗浄した。

本日は2日目ということもあり、EBUKANGA では近くの小学校 3校から一気に患者が訪れ、1時は 100名以上が行列を作った。

EBUSIEKWE では、昨日の夜まで CHV と共に一軒一軒訪問し、スナノミ患者に知らせて回り、その結果、8時の開始時間には数 10名が待っていました。

想定の4倍を超える患者数が治療に訪れるため、薬、器具類が全く足りない。何か対策を考えていたところ、保健省の方から「持ってくる」と強い言葉を頂き、スナノミを除去するために使うカッター、医療用ゴム手袋などを持ってきてもらった。昼過ぎになれば、放課後の子どもがドッとやってくると予想される。

2017年03月21日

【速報】第3回スナノミキャンペーン2

3月19日-3月26日、8日間にわたり「第3回スナノミキャンペーン」を開催している。本日は以前のキャンペーンで最も患者数が多かったEMMABWI周辺2箇所で開催中だ。患者数はどんどん伸び、各箇所で50名を超えてる。



明日にはさらに増えると予想出来る。

スナノミ症が国会質問に登場！

3月13日の参議院予算委員会で、スナノミ症が国会質問に登場し、公明党の参議院議員佐々木さやか先生が質問した。



国会中継によると、以下のような質疑応答のやり取りがなされた。まず、佐々木先生は、ケニアで流行しているスナノミ症が小さいノミが原因となる感染症で、皮膚に入り込むと感染した組織が壊死してしまう上、ひどい場合は死につながることを紹介した。この上で、参議院議員の秋野公造先生がケニアに視察に行かれた結果、スナノミ症が①最貧困地域で流行していること②子どもやお年寄りがかかりやすい病気であることであることを伝えた。また、佐々木先生ご自身も含め、公明党が党をあげて運動靴の回収を行うなど、日本リザルツのQ&AAA+プロジェクトをサポートしているというお話を紹介して下さった。質問の中で、佐々木先生は、スナノミ症の全容解明に向けた研究と日本の更なる協力を要請されていました。これに対し、岸田文雄外務大臣からは、草の根・人間の安全保障無償資金協力によって、土の床だった学校をコンクリートで舗装するなどの取り組みが行われていることが紹介された。また、スナノミ症の研究に関しては、日本と開発途上国とで実施する地球規模課題対応国際科学プログラム、SATREPSの活用が提案されていた。

再びエチオピア航空へ

日本リザルツが実施するQ&AAA+プロジェクト。お陰様で、全国から続々と運動靴が届いている。



さて、運動靴をどうやって運ぼう？ということで、今日はアドバイザーの中島と一緒にスタッフ長坂がエチオピア航空に行ってきた。エチオピア航空さんは、代表の白須が今回のケニア渡航で利用するなど、日本リザルツと親交の深い企業だ。今後の運動靴輸送について、お互いに知恵を出し合った。

2017年03月22日

結核アドボカシーー

3月24日の世界結核デーを前に、ミネソタ大学の博士研究員の港雄介先生と一緒に結核アドボカシーを行った。港先生は、日本リザルツが力を入れる結核の分野において深刻な問題となっている多剤耐性について研究をされている。国際的にも、G7/G20に向けて、薬剤耐性の中でも、特に多剤耐性結核を主要議題にしようという動きが出てきている。

まずは栄研化学株式会社の納富継宣執行役（LAMP法の開発者）と森安義部長。

LAMP法は栄研化学株式会社が開発した結核遺伝子検査法。他の方法に比べて簡単なのが特徴で、この方法が出来たことで、開発途上国の医療施設やスタッフでも結核菌を正確に検出することが可能になった。

昨年には、LAMP法が世界保健機関（WHO）の推奨を受けた。
港先生、熱心に開発秘話などを聽かれていた。

次に、内閣官房 国際感染症対策調整室・新型インフルエンザ等対策室の田中剛企画官で、厚生労働省出身の医学博士。

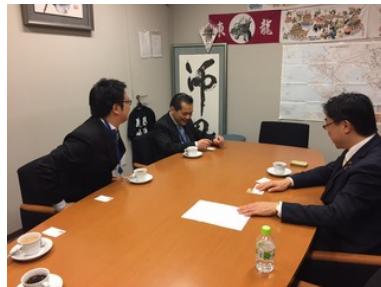
内閣官房の多剤耐性に関する取り組みについて、紹介をしていただいた。



続いて、国立研究開発法人医薬基盤健康栄養研究所監修長類医科学研究センターの保富康宏センター長。保富先生は、日本で初めて経鼻結核菌ワクチンを開発した方で、結核ワクチン研究の日本の最先端をゆく日本随一の研究者だ。

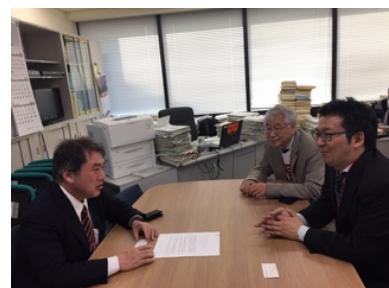
この後、保富先生と港先生は参議院議員秋野公造先生のもとを表敬訪問した。

秋野先生はワクチン予防議員連盟の事務局長。厚生労働省出身の医学博士で有意義な意見交換の場となった。
最後は厚生労働省。



健康局結核感染症課の浅沼一成課長と訪問した。

Q&AAA+プロジェクトでもサポーターをされている。



2017年03月23日

【速報】第3回スナノミキャンペーン4

3月19日-3月26日、8日間にわたり「第3回スナノミキャンペーン」を開催している。本日は MUSINAKA P.A.G. CHURCH(幼稚園併設)と KHUSIYONGA CHURCH ESSABA.で開催中。幼稚園に通う小さな子どもたちが待ってくれていた。今日1日で 74名治療、102家屋を洗浄している。世界中で子ども達を熱中させてくまモン塗り絵を配った。



くまモン塗り絵に熱中！

エイズ孤児の家族

ビヒガ郡保健省に務める医師にも参加してもらい、手袋やカッターなど器具が不足していると伝えたところ、明日手袋とカッター持ってきてくれるとのこと。



日本から届いた靴を治療が終わった患者に履かせてあげるエドワード

本日は私も治療に参加していたため、MUSINAKA P.A.G. CHURCH(幼稚園移設)のみ見ただけであった。今日 1 日で治療:74 名(MUSINAKA P.A.G. CHURCH(幼稚園移設)が 44 名,KHUSIYONGA CHURCH ESSABA が 30 名)洗浄:102 家屋(67,35)だった。

2017 年 03 月 24 日

外務省で平成 29 年度日本 NGO 無償資金協力実施要領説明・意見交換会

本日午後 3 時から外務省会議室において、「平成 29 年度日本 NGO 無償資金協力実施要領説明・意見交換会」に出席した。

現在リザルツではケニアにおいて N 連資金により、「ナイロビ市のスラム居住区におけるコミュニティ主導の結核予防・啓発活動の拡大支援事業」を実談中で、3年次まで行う予定。平成 29 年度の申請の手引きに基づいて、昨年度からの変更点の説明が行われ、SDGs や TICAD VI のナイロビ宣言に沿うような案件が要求されていると感じることが多くあった。そのほか JICA の安全対策についても JICA の方から説明があり、安全対策の重要性を感じた。その後、質問・意見交換があったが、中でも対象となる事業のうち、「ソフト中心の事業内容・経費積算のみ（ないしは大部分）で構成される技術協力・技術移転事業は対象としません。」との表記に関して、質問や意見が多く出された。

外務省の桜がもう咲いていた。



2017年03月25日

釜石生活⑩～事業報告書～

「青葉通り こどもの相談室」も、昨年 11 月からの事業についてまとめの作業を行っている。まず、実施してきた 12 のイベントの開催報告書ができたところで写真を撮ってみた。それぞれの報告書には、告知のチラシ、資料、参加者名簿、アンケート集計を添付している。本事業で一番手応えがあったのは、「支援者研修会」と「子どもの気持ちの学習会」後半だ。「片親疎外」や両親の不仲が子どもに及ぼす影響について、テーマに取り上げたことと、その時の参加者の反応が「現場のニーズに直結した、このような研修は初めてだ。ぜひ続けて欲しい」というものだったことだ。告知が遅かったために、参加者数が少なかったイベントもあり、改めて反省したり、いろんなことを思いながら作成した報告書なので、写真を撮ってみた。



【速報】第3回スナノミキャンペーン5

3月19日-3月26日、8日間にわたり「第3回スナノミキャンペーン」を開催している。

Emmwatsi Pri school EMBALI と Musirili Church of God ITUMBA での開催中。
本日はケニアの全国紙 Standard 紙とケニア西部をカバーする West Kenya TV の取材が、本日はキャンセルに。明日、両社とも取材に来てくれる予定だ。
本日は私も治療に参加していたため、Emmwatsi Pri school EMBALI のみしか見れていない。



2017年03月26日

釜石生活⑪～同志 その②～

先日、釜石に来てから出会った同志で、盛岡在住の放課後児童支援員の方のお話を書いたが、今日はもう一人の同志について、お話ししたいと思う。彼女は元養護教諭、いわゆる保健室の先生。彼女は、釜石市でも東日本大震災の被害が甚大だった地域の小学校の養護教諭だったのですが、震災後別の学校に勤務するようになりました。前の学校の生徒さんについて、新しい先生に引き継いだものの、新しい先生から相談されることも多く、学校の枠にとらわれず、親を亡くした子の気持ちに寄り添いたいという気持ちで、退職されて、個人として、被さいして傷ついた子どもの気持ちに寄り添う活動をたった一人でされている方。彼女はまさしくグリーフケアを実践する人で、私は彼女を見ていて、グリーフケアについて学びたいと思うようになった。また、彼女は、親の離婚や不仲が子に与える影響についてはご存じなく、私たちの勉強会にはほとんど参加してください、「離別と死別の共通点も相違点も理解できだし、いろんなことが繋がって理解できだし、ず～っと疑問に思っていたことが腑に落ちてすっきりした」と感想を述べられた。私たちはよく、次に何を学びたい、釜石でどんな活動をしたいなどを話すとき、「同じようなこと考えてたね」と言い合う。このような同志との出会いに感謝するとともに、この街でもっともっとそのような出会いがあるようにと祈っている。

2017年03月27日

リザTがこんなところに！

日本リザルツといえば、あの We Love Tシャツ。代表の白須もスタッフも名刺代わりに着ている。なんと、今回はこんなところにリザルツTシャツが登場した。22日に発売された「月刊ランナーズ」5月号だ。

リザTを着てくださったのは、内閣官房内閣審議官の山田安秀新型インフルエンザ等対策室長・国際感染症対策調整室長です。多剤耐性問題の解決など、リザルツ大応援団として大活躍されている。

なんと、山田室長、東京マラソンでリザTを着て走ってください、しかも42.195キロ完走！おめでとうございます。



TB-day(世界結核の日)

3月24日は世界結核の日(TB-day)、日本リザルツが支援している「結核予防・啓発活動」の事業地である、ナイロビ市内のスラム居住区 Kangemi でも、地域コミュニティとの繋がりを考慮した行事や活動を行った。具体的には、地域住民に対しては、結核予防・CHV 活動への理解・関心の呼び掛け、TB-day イベントへの参加、子どもたちへは、結核予防の大切さ、コミュニティ(社会)への奉仕など、自分のことだけでなく、家族・友達や周りの人たち、更に身の回りや地域の環境にも関心を持ってもらう目的もあった。また、症状の軽い結核患者の方に参加してもらい、自分たちも支援を受けるだけでなく、何らかの社会貢献が出来ることを励みに、治療への積極的な取り組み、更に社会復帰を目指していく、切っ掛けになればと思っている。また、彼ら患者への偏見を少しでも変えていければ、参加したことが大きな意義を持つことになる。この日行われたイベントや行事の様子を紹介していく。まず、集合場所の Kangemi Health Centre に80人のCHVの人たちが集合、メイン会場がある Gichangi 地区までを、結核予防や TB-day のイベントへの参加を呼び掛けたり、沿道の人たちに結核予防のパンフレットを渡しながら行進した。清掃活動開始までの間に、会場の直ぐ隣にある Bethel Academy を訪れ、子どもたちに“くまモン塗り絵”と先生から結核についての話を聞いてもらった。ここは公立の小学校とは異なり、地域コミュニティが運営する保育園・幼稚園・小学校が合わさった施設で、低学年までの子供たちが描いた 58 枚の塗り絵は日本に持ち帰り、熊本で展示する予定。また、上のクラスでは 60 人が先生から結核の説明を聞き、質問をしていた。間もなく清掃活動に参加する子供たち、結核患者の人たちや一部住民も集まり、箒、マスクと手袋が配布された。道端、側溝更に建物(トタンで囲われた露店など)との間に溜まった、紙屑・ビニール袋・板・食べ残しなどを箒で集め、ゴミ袋に入れる作業を続けた。乾燥しているため、掃くたびに埃が舞う中で、子供たちや 4人の患者の人たちも協力してくれた。これらゴミ袋はその後、行政機関である Westlands Sub-County(ウェストランド準郡)が手配してくれた車で回収されること。清掃活動を終えた後、会場ではダンスなどの余興が始り、病院に行かない夫を、妻・医者・CHV が説得する寸劇も、啓発活動の一環として演じられた。この後セレモニーに移り、招待者や主催者から挨拶などをもらった。今回は Westlands Sub-County から保健関係の方々7名のほか、招待者・地域コミュニティ代表など

18名が出席された。また、招待者ではないが、元MDR(多剤耐性結核)であった女性から、自身の体験談を話してもらう時間を設け、予防に役立ててもらいたいと考えた。

今回のTB-dayの行事は、リザルツが主催するのは初めてのため、どのように進行するのか、結果として何らかの効果が示されるのか、心配していた。しかし会場の周りを見渡すと、地域住民や通りかかりの人たちなど、一時100人近い群衆が見つめていた。スタッフやCHVを含む関係者だけでなく、住民や子供たちも協力してもらったことで、日々の活動や健康への关心を多くの住民に、訴えられたのではないかと思っている。これだけでは一時的な効果は出せても、経過とともに意識も失せていくため、継続して取り組んでいくことが必要なことから、今後も定期的に清掃活動などを行う予定である。



行進しながら呼び掛けやパンフレットを手渡す



小学生や白須代表もお手伝い



保育園・幼稚園・小学校が一緒になった、コミュニティが運営する施設



楽しかった塗り絵



結核について話を聞く

主催者側のテント

招待者席



子供たちのダンス

結核患者を説得する寸劇の場面

会場の周りに集まった住民たち

感染症対策

先日スタッフの紹介で、Westlands Sub-County(ウエストランド準郡)にある、感染症治療の設備の整った病院を訪問した。病院の創設者はインド人で、関連団体の寄付で運営されている私立の病院とのこと。外装工事で建物の周りが保護カバーで覆われていたが、中に入つてみると明るく奇麗で、ガラス張りの部屋が多く、中の医療設備は新規のように見えた。詳しくは聞かなかつたが、最近改装したのかも知れない。一般通院患者の待合所や薬局の前を通り、別棟に入るとそこは小児病棟であった。全てが子供専用とはケニアやアフリカ諸国でもあまり見られないのではないかと、思いながら3階まで案内された。途中の階には、子供たちが遊べるスペー

スが設けられていた。所謂ナースステーションには、看護師とみられる女性が数人おり、人員体制も充実している印象を受けた。たまたま訪れた個室部屋の入院患者は、10歳の少年で20日前に入院し、いくつかの検査をしたが、完全に原因が突きとめられていないため、更に検査を続けると担当医が話してくれた。下肢に問題があるようで、歩行が難しく殆どベットで過ごしている。今回は感染症に対するハード面を観察させてもらったが、この病院に限らず、行政サイドの対応などソフト面の対策を聞いてみたいと思う。尚、この病院は敷地内から全て写真撮影には許可が必要なため、写真は残念ながら載せていない。

2017年03月28日

運動靴輸送のご相談に

日本リザルツが始めたQ&AAA（トリプルエー）+プロジェクト。嬉しいことに全国から続々と運動靴が集まっている。



また、3月13日には参議院予算委員会で、佐々木さやか参議院議員がスナノミ症について国会質問をされるなど、国会議員の先生の中でも関心が高まっている。なんとかして、運動靴を定期的に送る仕組みを作りたい！



アドバイザー中島が、スタッフ長坂とともに豊田通商を訪問し、運動靴輸送方法について相談をしてきた。豊田通商は、4月1日からアフリカ本部を設置されるなど、アフリカ事業に力を入れておられ、たくさんのアイデアをいただいた。よい仕組みができ、1人でも多くの子どもたちに運動靴が届くといいと思う。

栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)運営委員会

3月27日に、第3回の運営委員会が開かれた。本プラットフォームは、2013年に提唱された「Global Nutrition for Growth」に呼応し、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて官民連携で世界的な栄養改善の取り組みを推進するための一環として、昨年、設立されたもので、関係府省と国際機関と連携しながら、新興国・途上国を含む各国の栄養改善を進めることを目的とし、民間企業や各種NGO/NPOを含めて、情報交換と新たなビジネスの場を提供することも期待されている。現在、様々な取り組みが試行されているとともに、栄養改善を目指した各種の活動の情報を共有すべく活動が進められており、日本リザルツとしても、関係機関や民間企業、多くのNGO/NPOと手を携えて、世界的な保健政策の推進と栄養改善に向けて一歩、一歩、地道な努力を続けて行きたいと考えている。

2017年03月29日

大使公邸訪問

先日在ケニア日本大使の公邸のご招待を受けて代表の白須と共に伺った。よく手入れされた庭と重厚な感じの館はさすがに立派で、貴賓館としての役目も十分担えると思った。会食に同席されたのは、植澤大使とお二人の書記官で、他にJICAケニア事務所の佐野所長も、招かれていた。話題は、我々が現在取り組んでいる事業や活動について、白須代表が今回の出張で見聞したことを交えながら、大使をはじめ同席の方々に語っていた。スナノミ支援の話では、現地で実施していたキャンペーンに参加してきたばかりの生の情報をお伝えし、持参したスナノミ症患部の写真(コピー)を大使にも見ていただいた。また、東京事務所で取り組んでいる靴の回収については、ケニアまでの搬送をエチオピア航空の協力を得るべく、協議している話も出た。ナイロビ市内スラム居住区での事業についても、前週に訪れた小学校で、“くまモン塗り絵”や高学年クラスで結核に関する講義をおこなったことを話した。また3月24日の“世界結核の日”に合わせ、同居住区でイベントやセレモニーを行い、住民や子供たちも参加するボランティアでの清掃活動を行うことや子供たちとの交流を予定している話もさせていただいた。

リザルツの今後の活動も、地域コミュニティや子供たちを巻き込みながら、進めていきたいと思う。

国際連帯税議連第1回総会報告>自民党三役をまき込んで実現へ！

国際連帯税創設を求める議員連盟（会長：衛藤征士郎衆議院議員）の2017年度第1回総会が、昨日（3月28日）午前8時より衆議院議員会館会議室で開催された。早朝にもかかわらず、国会議員9人、代理10数人、市民10数人が参加した。



議題は、総会と（外務省委託）調査報告の2つで、とくに後者を巡って活発な議論が交わされた。

総会の方ですが、新たに横路孝弘衆議院議員が「顧問」に就任することになった。同路議員から「私は世界連邦運動日本委員会（議連）の会長をしているが、日本委員会の主要な取り組み課題のひとつが国際連帯税だ。両議連の協力で導入を図りたい」と挨拶があった。

● 「連帯税に関する委託調査」報告>世論調査では70%強が税支払いを是認

調査報告は、「国際連帯税に関する平成28年度外務省委託調査」がまとめたので、事務局を務めた日本総合研究所の松岡斉所長ほかから報告された（以下、コンテンツと内容については下記参照）。

調査書での重点課税方式項目としては、航空券連帯税、金融取引税、炭素税、旅券手数料への課税の4つが挙げられている。報告で面白いなと思ったのは、「国民の支持」調査で、航空券連帯税に関するアンケート調査では「4分の3が定額税・低率税を支払ってもよい」と回答したこと（国際連帯税に関しては賛成が5割強）。なお、この調査書については、来週外務省のWEBサイトに掲載されると相星孝一・地球規模課題審議官から報告された。

2017年03月30日

平成28年度事業報告書

平成28年度事業報告書が完成した。なんと163ページもある。平成27年度版は50ページほどだったので、3倍のボリュームとなり、リザルツの活動の幅広さを物語るものとなった。

釜石生活49～ADR～

3月29日、東京でADR仲裁人としての経験とノウハウを蓄積しておられる横条勝仁弁護士、現役の社会福祉士であり、また相談員として「離婚と親子の相談室 らぼーる」を切り盛りしてくださる嶋貴養子さん、そして、日本リザルツ代表の白須紀子、同アドバイザーの中島孝が来釜し、釜石市保健福祉部子ども課の高橋千代子課長、山根美保子係長、佐々木美穂主任と、「青葉通り こどもの相談室」の鈴木裕子、ボランティアの木下美喜夫さんで会合を持った。横条先生、嶋貴さんから、ADRとは何か、メリットはどんな点か、ADRの流れ、ADRの流れの中での親教育プログラムと「共同養育計画合意書」作成についてや、成功例についての話しがあった。釜石サイドでは、今期実現できなかったADR勉強会なので、ぜひ組み込んでいこうということになった。このADRの達成感や、親としてどんな状況においても子どものことを中心に考えることができたという自信を持って新しい人生に踏み出すことの尊さ、そして元夫婦は「子どもを育てる」という一大事業を共に成し遂げるビジネスパートナーとして関わっていくと覚悟を決めた時の爽快感、そんな感情を味わえる夫婦が増えることを願って、釜石での活動に組み入れていきたいと思う。

